

001 健ちゃん

No.	作品名	出版社	著者	ひとくちコメント	評価
1	日本の戦争	小学館	田原総一郎		☆☆
2	散歩の達人01/03月号	弘済出版社		神田・神保町を特集	☆☆☆
3	アルジャーノン、チャーリー、そして私	早川書房	ダニエル・キイス	「アルジャーノンに花束を」で賞を受けた時、記者が「どうしたらこのような作品がかけられるのか？」の問いに「それがわかったら教えてください。私も、もう一辺あんなのを書いてみたいんです。」と答えている。その後、氏は多重人格を扱った作品を多くてがけているが傑作を物にしたとは言えない。この本はそんな「アルジャーノン〜」の誕生に迫る自分探しの本として書かれたもので興味深く読める。帯には広末涼子の推薦文もあり時代を越えて読み継がれているのがわかる。	☆☆☆
4	記憶の隠れ家	講談社文庫	小池真理子	高橋克彦の記憶シリーズに似た短編集。ホラー度、意外性に欠けるか？	☆☆☆
5	死者はまどろむ	集英社文庫	小池真理子	美しい自然と信仰心厚い村人たち。「夢見村」に魅了された間宮亜希子は一家で一夏を過ごす。ここは家族に幸福をもたらす優しくさせる魔法の土地だった。偶然、異様な村の葬列、共同墓地を見た時からアメリカ映画風のホラーの世界に入り込んでゆく。夢見村の描写が良く風景が眼に浮かぶ。それだけに不気味さが静かに浸透してくる村の異様さが際立つ。ただし、怖さはあまり感じられない。	☆☆★
6	カラカラ王の日本仰天旅行記	小学館文庫	荒俣宏	1881年(明治14)ハワイ国王カラカウアが世界一周をした時の旅行記を日本編を中心に翻訳したもので異文化の出会いがもたらす仰天する出来事の数々。	☆☆☆
7	散歩の達人01/04月号	弘済出版社		浅草・隅田川	☆☆☆
8	幻想ホラー映画館	PHP文庫	高橋克彦	高橋克彦が子供の時に見た作品から近年のものまでホラー、日本の怪談、SF、スリラーの四章におおぐりしそれぞれの作品について感想、批評をかいたもの。氏は無類のホラー好きだけに自分の見た映画の記憶が蘇ってきて解説は1つ1つ納得できる。「アンドロメダ…」、や「オメガマン地球最後の男」(チャールストン・ヘストン主演:吸血鬼が少年の町ZFの雰囲気がある)などは全然再上映されていないのでまた見てみたい映画だ。	☆☆☆☆
9	テレビ消灯時間	文春文庫	ナンシー関	前回人気作家でエラそうと言ったのは勘違いで、下段の吉川潮のことでした。	☆☆☆
10	テレビ犯科帳許せん!	講談社	吉川潮	日刊ゲンダイの「TV見たまま思ったまま」を単行本にしたもの。番組の批評をシタレントの採点をしている。批評は辛口でなかなかと思うがやっぱりエラそうに書いているのが気に食わん。	☆☆☆
11	みんなの秘密	講談社文庫	林真理子	様々な男と女の間を、それぞれの相手に対する気持ち、現実の生活の中で占める微妙なずれを細かな心の動き、仕草を捉えて冷静に描き、男と女の本質的な考え方に迫る12の短編集。何気なく付き合っている人にもこういう秘密・本音の部分があるのかもと思わせてしまうあたり林真理子の観察眼は鋭い。(不倫を扱った恋愛ものと思っただけですが結構Hでした。)	☆☆☆☆

12	IN☆POCKET 01/02月号	講談社		総力特集「神保町徹底ガイド」逢坂剛と渡辺容子が本の街「神保町」の読む・食べる・楽しむをテーマに特別対談。神保町は表の靖国通りはビル作りの店が多いが三省堂の裏のすずらん通りなど昭和初期を思わせる看板を持つ店も結構残っているので懐かしさに浸りたい人にはいいかも。	☆☆☆
13	勇気凛々ルリの色 福音について	講談社文庫	浅田次郎	主に自分の身の回り、私生活、作家活動における出来事をエッセイにまとめたもの。この人何かしらギャグをかまさずにはられない体質と見える。ちょっといい話も作ったようなギャグが入ると興味も半減。	☆☆★
14	笑芸人VOL..4	白夜書房	高田文夫監修	「満開！東京漫才」爆笑問題と高田文夫の対談を皮切りに今が旬の浅草キッド、のいるこいる、順子ひろしの魅力、漫才の歴史、名鑑を通して芸の比較論を取り上げている。他にコミックソング大全としてクレージーものやケメ子の唄、三平、東京ぼん太など大々的にレコードジャケットをカラーで掲載。吉永小百合だって「奈良の春日野」という鹿のふんが出てくるコミカルな唄を出しているのだ。	☆☆☆★
15	東京人 01/04月号	東京都歴史文化財団		「銀座歩く楽しみとっておきの88話」さすがに銀座いつにもまして大々的に頁を割いて総力特集を組んでいる。銀座は明治の時代からモダン建築がおおく大人の街の色合いが強いが路地も多く意外な発見のある街でもある。	☆☆☆
16	日本創業者列伝	学陽書房	加来耕三	気分が沈んでいる時はこういう立志伝を読むのもプラス思考を喚起していいかも。	☆☆★
17	旅順	PHP文庫	柘植久慶	旅順の戦いを時系列的に双方の視点から2元中継した形でまとめたもの。双方の戦略、戦術、戦争における実戦心理など解説を加えて評価しているところが面白い。	☆☆★
18	全日本プロレス馬場の戦略 防御は最大の攻撃なり 中巻			新日本プロレス(猪木)と全日本プロレス(馬場)の興行戦争の裏面史。プロレス界統一を目指し仕掛ける猪木、潰し合いを避け自分のスタンスを頑なに守り受け流す馬場、そんな2人の駆け引き、知られざる事実、エピソードを交え馬場側からの戦略について著わしたもの。今なお週刊ゴング誌に連載中。	☆☆☆☆
19	定年ゴジラ(コミック版)	秋田文庫	重松清作、 三山節子画	新聞広告で文庫版のコミックが出ていることを知り軟弱にもこっちらから読むことにしてしまつた。物語は定年を迎えた会社人間であった男たちがニュータウンでひがな1日を過ごすことになって起きる悲喜こもごもの出来事を通し、余生、親子の絆、妻への想いを見つめ直し前向きに生きていく姿を描いた連作もの。なおこの作品は作者が望んでいたTVドラマ化もNHKの衛星放送で実現しており2001年5月にはNHK総合TVでも放送が決まっているとの事。	☆☆☆
20	IN☆POCKET 01/03月号	講談社		巻頭対談「乙川優三郎×縄田一男」時代小説の名手乙川優三郎と時代小説の仕掛け人縄田一男が「喜知次」文庫化を記念して小説はもとより時代劇にまで言及と銘打って特集。	☆☆☆
21	喜知次	講談社文庫	乙川優三郎	喜知次とはキンキのことでカサゴ科の赤色の魚。両親を亡くし主人公の家に養女となった6歳の娘花哉の頬が赤かったことから主人公の小太郎が付けた仇名。物語は幼なじみの父親が派閥抗争の犠牲となり藩政改革に目覚めた少年たちの成長・生き様を堅き友情と淡い恋心を通して描いたもの。	☆☆☆
22	猟奇傑作選	光文社文庫	山前 譲 選		☆☆★

23	ハンニバル・レクターのすべて	新潮社	新潮社行動科学課編	劇場公開前に映画のシナリオを含み映画の背景、舞台になるイタリア、小道具にまつわるエピソードをまとめたもの。映画館のプログラムは結末を書かないことが多いし端折っているのでストーリーどおりでないこともある。だからこういう本はあとで読んでも正確な分とでも役立つ。映画を観るまで結末を知りたくない人はXX頁は読まないことと書いてあったが私は読んでしまった。でもここには書かない。	☆☆★
24	21世紀に残す名作漫画BEST100	竹書房	日本漫画遺産振興委員会	有名人から通りすがりの人まで漫画を愛する者500人のアンケートで選んだBEST100！選考基準を「今読んでも面白いもの！」としているため過去の名作のみでなく現在の話題作も含めたランキングとなっている。それぞれの作品に解説・紹介記事が付いており、他に違う切り口のBEST10も載せているので結構ハマりました。	☆☆☆☆
25	つげ忠男劇場	ワイズ出版	つげ忠男	つげ義春の弟である著者が綴る自分史とイラスト。社会から外れてしまったアウトローの孤独感、時と風景を封じ込めたようなイラストに見られる独特のリアリズム感がいい。	☆☆★
26	散歩の達人01/05月号	弘済出版社		「谷中・根津・千駄木」を特集。東京の中でもとびきり下町の匂いがする町の佇まい、今なお残る井戸の数々、看板娘ならぬ猫が店番しているお店を紹介している。	☆☆☆
27	赤線跡を歩く	自由国民社	木村聡	今なお残る廃屋に近い古い建物という旧赤線地帯に残ったお店、再開発から外れた老舗の料理屋、駅前の酒場を擁する雑居ビルが最たるものと思う。本書は全国に残る赤線跡に残る、あるいは取り壊される前に撮りためたものを紹介。	☆☆☆☆
28	小泉八雲集	新潮文庫	上田和夫訳	小泉八雲の怪談と随筆を選り集めたもの。随筆は日本をこよなく愛した八雲の心情がよく出ている。「日本人の微笑」は美化し過ぎているさらいもあるが外国人には理解しにくい場面での笑顔の意味についても我々が思う以上に捉えている。そしてそれが外国文化に触れることによりその良さが失われていくであろうことを既に予測していた。	☆☆☆
29	TV博物誌	平凡社	荒俣宏	TVの誕生から今後のTVの行く末を質問形式の目次にして本文で回答する趣向。なぜNHKに先駆けて日テレが開局したのか？なぜテレビは外国TV映画を放送したのか？当時も今も疑問に思わないことを目次により興味を引く工夫を凝らしている。	☆☆☆

